

ASF2021 仏文カフェ プロフィール

米山 祐之 YONEYAMA HIROYUKI

1959年4月29日生まれ、埼玉県さいたま市浦和区出身。

1979年、上智大学文学部仏文科入学、外国人と外国語での会話を初めて経験。

大学3年の夏、初めて海外渡航、ジャック・ベジノ仏文科教授の引率でクラスメートと共にフランス西海岸 Royan の語学校での4週間のフランス語研修と2週間のフランス周遊バス旅行を経験。

上智大学キャンパスに初めて足を踏み入れた日に目の当たりにした華やいだ雰囲気ながらも落ち着いた佇まいはそれまで自分が全く経験したことのない別世界に思え、今も鮮明に記憶に残っています。多くの外国人教授や留学生、帰国子女の方々との交流、また Royan での自炊生活での地元の方々とのふれあいや語学校で出会った世界各国からの友人たちなど、ソフィアンとして過ごした4年間は多くの人々との出会いがとても新鮮で楽しかった一方、同一文化、同一言語の日本人同士では全く感じなかった様々なコミュニケーション上の困難や誤解にも直面することになり、大きく視野を広げてくれました。就活で当時広告業界においてもっとも海外展開に積極的で数々の国際的なイベントも手がけていた電通を志望したのは、自分もグローバルなコミュニケーション活動に携わってみたいという思いからでした。

電通に入社して5年目、暫く疎遠になっていたフランス語との再会となりました。パリに何度も出張し、英語を全く話さない(話そうとしない?) フランスの広告代理店の人々と錆びかけていたフランス語だけの打ち合わせとなり、お互いイライラしながら四苦八苦を繰り返しましたが、ようやく完成した広告が掲載された雑誌を目の前に彼らと握手した日の喜びは忘れられません。

入社22年目、中国における日系企業の将来性を見越し、電通では華南地区(広州)にビジネス拡大を使命とする本社社員を常駐させることになり、私が120人余の現地スタッフを抱える広州拠点への初めての出向者として赴任を命じられ、その後2年余りを拠点唯一の日本人として過ごしました。当初中国語が全くわからず日々困難の連続でしたが、地理的には日本の隣国で交流の歴史も長い中国の人々に対して、言葉の違いの裏にある考え方や行動における大きな隔たりは現地でも生活と共にして初めて実感するものであり、また同じ中国でも民族の違いから地域によっても大きく異なります。自分にとってはその後中国でコミュニケーションを生業とするための原点ともなった貴重な体験でした。

現在は日仏企業共同出資の広告代理店で、国籍の違いによる企業文化の相違や、お互いの強みを生かした成長の方向性を考えながら日々を過ごしています。

ASF2021 仏文カフェ プロフィール職歴

米山 祐之 YONEYAMA HIROYUKI

1983年 上智大学仏文科卒 同年(株)電通入社、海外担当部門に配属

1988～1990年 東芝の海外向け広告販促活動の企画制作を担当

フランスの雑誌紙面で展開した企業広告をフランスの広告代理店と共同で実施 等

1990～1996年 トヨタ自動車の海外向け広告販促活動の企画制作を担当

「ワールドマッチプレー選手権」(ゴルフ)の冠協賛によるグローバルな販促活動

汎アジア・汎アフリカ企業広告、パキスタン工場ロンチ告知キャンペーン 等

1996～2004年 国内向け広告販促活動の企画制作を担当

セコムのマス4媒体を使ったホームセキュリティキャンペーン

永谷園のテレビCM制作、大相撲本場所を露出機会としたブランド浸透活動 等

2004～2012年 北京電通広告有限公司(広州分公司)に赴任

ヤリスほかトヨタ自動車の現地販売車の広告・販促キャンペーン

北京・上海・広州ほかモーターショーでのトヨタ・レクサス展示ブースの制作・運営

NBA(北米バスケットボール)の中国におけるトヨタのスポンサーシップ活動 等

2012年 本社人事部門に帰任

人事異動の調整・付議・発令、国内外出向人事に伴う法務税務対策、海外勤務者対応

2018年 本社監査部門に異動。フランスの広告代理店グループ「Publicis」の日本子会社で

電通の関連会社でもあるビーコンコミュニケーションズ(株)に常勤監査役として出向、現

在に至る